

コロラド州：小麦作柄と気象状況

2005年6月14日

2005年6月12日現在：

6月12日に終わる週に前週に引き続き待望の降雨が各地見られた。降水量は多い所で、1~2インチであったと報告された。気温は前週に続き記録的な低さであった。Topsoil及びSubsoilの水分は、共に前週より改善した。1週間の州平均農作業稼働日数は4.9日（前週：5.3日）あった。

冬小麦の100%が出穂した。低温続きで登熟は遅れ気味であった。全体の18%が登熟期（turning color）と成った。5年平均では32%である。急激な高温・乾燥は登熟期の小麦の澱粉蓄積には不適であるが、低温が続く事も低収量の原因となる。作柄評価は前週より多少落ちた。

6月10日発表、6月1日付けUSDAの冬小麦生産量予想では、単位収量は5月1日予想より3 bushels減少し、32.0 bu/acとなった（2004年産実績：27.0 bu/ac）。昨年実績より高い予想であるが、5月下旬からの天候不順が登熟を遅らせていることが、マイナス要因と考えられる。詳細は別表の通り。

土壌水分：6月12日現在

	Very Short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	3	16	71	10
Subsoil (%)	10	31	53	6

生育状況：6月12日現在

	This Week	Last Year	5-Yr Ave.
Headed (%)	100	100	97
Turning (%)	18	34	32

作柄状況：6月12月現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This week (%)	6	18	33	34	9
Last week (%)	5	18	34	36	7

Source：Colorado Agricultural Statistics Service

6月1日付けUSDA生産量予想（冬小麦）

State	Area Harvested 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
				May 1	June 1		
CO	1,700	2,450	27.0	35.0	32.0	45,900	78,400
USA	34,462	35,069	43.5	45.4	44.1	1,499,434	1,545,971

当該作柄レポートに関するご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

小川正晃 : Email ogawa.max@omicnet.com